

「田んぼの学校」実施報告書

2018年度

野川で遊ぶまちづくりの会

目次

1. 企画書	1
2. 日程表	2
3. 実施計画・報告書	5
4. 会計報告	39
5. おたより	41
6. 参加者名簿	78
7. 参加者感想文集	81
8. 総括報告	106
付録. 調査記録	107

1. 企画書

「田んぼの学校」

企画名：佐須で持続可能社会を实践！！

野川で遊ぶまちづくりの会

都会の谷戸と湧き水の小川

東京の区部に隣接する調布市には多摩川の支流である野川が流れています。野川は府中崖線の湧き水を集めて流れる都会では貴重な清流です。その野川に府中崖線の谷戸から湧き出る水を源流とする小川（一部コンクリートによる用水路）があり、昔から、谷戸から野川までの川沿いに田んぼがありました。今でも田んぼを続ける農家があり、谷戸には雑木林があり、ホタルも飛ぶ都会では信じられないような環境が残っています。しかしながら、田んぼも減りつつあり、雑木林も手入れがされず、このままでは、この貴重な環境がなくなってしまう。

田んぼで遊び、学ぼう

私たちの会では、会の名前にあるとおり、野川で遊びながら、野川を子供達が遊べる（泳げる）川にするために、まちづくりの提言をしていこうという趣旨で活動（1991年2月発足、ホームページ：<http://nogawa-tanbo.jp/>）しています。

野川の支流である小川（通称佐須用水）の清掃と生き物観察会をしているとき、会員の一人が田んぼをやらないかとつぶやいた一言がこの地で田んぼをやるきっかけになりました。

何事も実践（遊ぶこと）からという私たちの活動にはぴったりの課題でした。野川のいのちはこの湧き水です。この湧き水がまた多くのいのちを育てているということ、体感できる田んぼはまさしく「田んぼの学校」でした。幸い、近くの農家に友人がおり、援農という形で、田んぼを始めることができました。それから26年、会員を中心に田んぼをやってきて、自分達だけでなんとかできるという自信がつくところまで来ました。

昨年も同様の企画で後援をいただき、事業を実施することができました。本年も田んぼを調布に残したいという私たちの想いで「田んぼの学校」を継続する所存です。

この地域を保全するため、またよりよくするため、市民の方々に広く知っていただくために親子（子供は小中学生）参加者、田んぼの保全事業の後継者育成を目指した参加者を公募し、広く市民に理解していただくことを企画いたします。具体的な内容は日程表をご参照下さい。

2. 日程表

「野川で遊ぶまちづくりの会」

「田んぼの学校」2018年度日程表

予定

時限	日付	曜日	開始時刻	終了時刻	作業・行事	課題	目的	備考
1	4月8日	日	9:00	13:00	◎「田んぼの学校」開校式◎ 説明会		当会の活動を理解してもらおう。また、今後の心構えなどを話し合う。	
2	4月8日	日	14:00	15:00	◎田んぼの春の植物観察		田んぼの春を感じてもらおう。	
3	4月15日	日			種籾準備(水に浸ける)	種って何？どうして芽が出るの？	種の働きを理解する。	
4	4月21日	土	10:00	15:00	◎苗床作り		苗を育てる場所で、苗の成長に大きな影響がある。苗が順調に成長するための準備を十分に作る。	
5	4月22日	日	10:00	12:00	◎種まき	種籾の不思議にせまる	苗半作という言葉があり、昔から苗作りが大切であることをあらわしていた。	
6	4月22日	日	13:00	15:00	◎用水路清掃 ◎生き物観察	用水路には何がいます？	地域と用水路(佐須用水)の関わりを考える。なぜ、用水路にゴミを捨てるのか。	
7	5月13日	日	10:00	12:00	◎堆肥入れ ◎荒起こし ◎畦草刈り ◎くろつけ準備	堆肥の養分は何？ 田んぼの荒起こしをしているとなぜか鳥がやってくる？	雑木林から落ち葉を集め、鶏糞や糠、藁などで堆肥を作る有機農法は昔から普通に農家で行われたことを理解する。化学肥料との違いは何かを考える。	
8	6月3日	日	10:00	12:00	くろつけ	くろつけは何のため？	くろつけは水漏れを防ぐ知恵である。今ではコンクリートなどで整備された田んぼがあるが、なにもなければ知恵が働くと言うことを学ぶ。	
9	6月9日	土	10:00	15:00	◎苗取り ◎しろかき	しろかきは何のため？	くろつけが入れ物の縁とすると、しろかきは入れ物の底からの水漏れを防ぐ知恵である。昔から田んぼにしてきたところは底が粘土状になっている。	
10	6月10日	日	10:00	13:00	田植え	丈夫に育て！	米作りで田植えは昔から村総出で行う大きなイベントであった。昔も今も神様に祈る気持ちは同じである。人ができる主なことはここで終わると言うこともある。	
11	6月10日	日	18:00	20:00	ホテル鑑賞会	ホテルはどこに棲む？	ホテルの生育できる環境を理解する。	
12	7月8日	日	10:00	13:00	◎一番草(草取り、根搔き) ◎畦草刈り ◎田んぼの生き物観察	田んぼに何がいます？	オタマジャクシ、ミジンコなど生き物でいっぱいになる田んぼでなにが起こっているか考える。	

「野川で遊ぶまちづくりの会」

「田んぼの学校」2018年度日程表

予定

時限	日付	曜日	開始時刻	終了時刻	作業・行事	課題	目的	備考
12	8月24日	金	13:00	21:00	柏野夏祭り参加(焼き鳥)		地域の祭りに参加し、交流を図る。	
12	8月25日	土	13:00	21:00	柏野夏祭り参加(焼き鳥)		地域の祭りに参加し、交流を図る。	
12	9月2日	日	10:00	11:00	田んぼ生き物観察	田んぼに何がいます？		
13	9月2日	日	11:00	13:00	カカシ作り	カカシって何してるの？	稲の穂に付いた糶をねらって鳥が来る。人も鳥も生きていることを考える。	
14	10月6日	土	10:00	13:00	◎ハザ掛け準備 ◎稲刈り			
15	10月7日	日	10:00	13:00	◎稲刈り ◎レンゲ種まき	刈った稲を干すのはなぜ？	稲を干すのはなぜなのか考える。	
15	10月21日	日	10:00	13:00	脱穀			
16	11月4日	日	10:00	12:00	糶摺り			
17	11月11日	日	10:00	12:00	精米	玄米、胚芽米、精米の違いは何？	一粒の米に託されたものを考える。	
18	11月23日	金	8:30	15:00	収穫祭(餅つき、豚汁)	お米を作ったのは誰？	お米作りを通して、人と自然の役割を考える。	
19	12月2日	日	9:00	16:00	親子炭焼きディキャンプ		◎炭焼きの実践を花炭焼きで体験し、雑木林の役割を考える。 ◎火起こし体験 ◎しめ縄作り	
20	12月16日	日	10:00	12:00	落ち葉拾い(堆肥作り)	雑木林って何？	雑木林の役割を考える。	
21	1月12日	土	11:00	13:00	佐須地区どんど焼き	どんど焼きってなに？	地域に根づいている行事に関心を持ち、生活との関わりを学ぶ。	
22	1月13日	日	10:00	12:00	堆肥切り返し		堆肥発酵促進	
23	2月3日	日	10:00	12:00	堆肥切り返し		堆肥発酵促進	
24	2月3日	日	13:00	15:00	縄織い、草鞋づくり	昔の人は稲藁でさまざまな生活に必要なものを作ってきました。そのひとつが縄です。	稲藁を使って縄を織うことを通して先人の知恵を学ぶ。	
25	3月10日	日	11:00	15:00	「田んぼの学校」卒業式(反省会)	米づくりを終えて	この1年で考えたこと、学んだことを確認する。	

3. 実施計画・報告書

プログラムマニュアル					
プログラム名称:		田んぼの学校			
実施予定日	4月15日	日	開始時刻		終了時刻
実施日			開始時刻		終了時刻
作業:	種籾準備(水に浸ける)				
課題:	種って何? どうして芽が出るの?				
目的:	種の働きを理解する。				
内容:	種籾を選別し、発芽させる。				
要領:	<ul style="list-style-type: none"> ●最初に薄い食塩水(新鮮な卵が浮く程度)に種籾をつけて、浮いた種籾を選り分ける(苗床の余ったところで蒔いてみるのもいい)。 ●一度洗って、きれいな水に浸ける。酸素を必要とするので1日に一回は水を取りかえる。 ●発芽したら、冷蔵保存(5から10℃)する。 ●種蒔の前日に発芽していない場合、風呂の残り湯(30℃以下)に 				
準備:	●参加者に一握りずつ分けるもち米の種籾を用意する●				
用具:					
服装・装備:					
担当者:					
実施記録:	指導担当者名:尾辻 義和				
	参加者名:				
	開始時刻		終了時刻		
	実施内容:				
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----				
備考:	留意事項:				
	----- ----- -----				

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	4月22日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
実施日	4月22日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
作業:	◎種まき					
課題:	種籾の不思議にせまる					
目的:	苗半作という言葉があり、昔から苗作りが大切であることをあらわしていた。					
内容:	●種籾を蒔く。					
要領:	●もち米と粳米の種籾を4, 6の割合で、区別(もち米に粳米が混ざるともちにならない)して蒔く。●種籾は重ならない程度に密に蒔く。●薄く(5mmほど)土をかける。●かまぼこ状にネットをかける。					
準備:						
用具:	ネット、ネットフレーム(20本)、ふるい					
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻 義和					
	参加者名:別途出席表参照					
	開始時刻	10:00			終了時刻	12:00
	実施内容:					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
留意事項:	----- ----- -----					
	----- ----- -----					
	----- ----- -----					
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	4月22日	日	開始時刻	13時00分	終了時刻	15時00分
実施日	4月22日	日	開始時刻	12時00分	終了時刻	13時30分
作業:	◎用水路清掃 ◎生き物観察					
課題:	用水路には何がいますか？					
目的:	地域と用水路(佐須用水)の関わりを考える。なぜ、用水路にゴミを捨てるのか。					
内容:	●佐須街道から野川までの佐須用水(本流)のゴミ拾いをする●同じところで、水棲動物を捕獲して観察会を行う。					
要領:	●用水路に入り、ゴミ拾いをする。●ゴミは分別する。●空缶の中にはザリガニがいるので、捕獲する。●ゴミはリヤカーで集め、児童館裏に置かせてもらう。					
準備:	●クリーンセンター(ごみ対策課)に届け出、佐須児童館に連絡をする。					
用具:	●ゴミ袋、リヤカー、軍手●水槽、水棲動物用捕獲網					
服装・装備:						
担当者:	講師: 石川氏					
実施記録:	指導担当者名: 尾辻 義和					
	参加者名: 別途出席表参照					
	開始時刻	12:00			終了時刻	13:30
	実施内容: ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
留意事項: ----- ----- ----- -----						
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	5月13日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
実施日	5月20日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
作業:	◎堆肥入れ ◎荒起こし					
課題:	堆肥の養分は何？ 田んぼの荒起こしをしているとなぜか鳥がやってくる？					
目的:	雑木林から落ち葉を集め、鶏糞や糠、藁などで堆肥を作る有機農法は昔から普通に農家で行われたことを理解する。化学肥料との違いは何かを考える。					
内容:	●堆肥を田んぼに均等に撒く●撒いた堆肥を耕運機で漉き込む●畦の草刈りをする。●刈った草は田んぼに撒く。●畦の際に水路を作り、水を引く。					
要領:	●水路に堰を作り、田んぼに水を引き入れる●畦の際に水路を作る●畦に泥を塗り付ける分を畦から削る					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻 義和					
	参加者名:別途出席表参照					
	開始時刻	10:00			終了時刻	12:00
	実施内容:	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----				
	留意事項:	----- ----- ----- -----				
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	6月9日	土	開始時刻	10時00分	終了時刻	15時00分
実施日	6月9日	土	開始時刻	10時00分	終了時刻	14時00分
作業:	◎苗取り ◎しろかき					
課題:	しろかきは何のため？					
目的:	くろつけが入れ物の縁とすると、しろかきは入れ物の底からの水漏れを防ぐ知恵である。昔から田んぼにしてきたところは底が粘土状になっている。					
内容:	●苗代から苗を取り、わらで適当な量を束ねる。●取った苗は水に浸けておく。●田んぼに水を十分に入れ、耕運機で代掻きをする。●表面を水平にならす。					
要領:	●結束用のわらは、あらかじめ水にぬらしておく●結わえた苗の束は籠に入れて水に浸けておく●もち米と粳米の苗を絶対に混ぜない。●代掻きが終わる頃、水を止めると高低がわかる					
準備:	●結束用のわら●籠を用意する					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻 義和					
	参加者名:別途出席表参照					
	開始時刻	10:00			終了時刻	14:00
	実施内容:	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----				
	留意事項:	----- ----- ----- -----				
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	6月10日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	13時00分
実施日	6月10日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
作業:	田植え					
課題:	丈夫に育て!					
目的:	米作りで田植えは昔から村総出で行う大きなイベントであった。昔も今も神様に祈る気持ちは同じである。人ができる主なことはここで終わると言うこともある。					
内容:	●田植えをする ●南側にもち米を田んぼの四割くらい植える					
要領:	●30cm間隔に印のついた縄(25m)を張り、印のついたところに植える。 ●縄は25cm間隔ですらしていく。 ●苗を植える人は、植え終わったら一步下がって自分の足跡をならす。 ●水は少な目に張る。					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻 義和					
	参加者名:別途出席表参照					
	開始時刻	10:00			終了時刻	12:00
	実施内容:					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
留意事項:	----- ----- -----					
	----- ----- -----					
	----- ----- -----					
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	6月10日	日	開始時刻	18時00分	終了時刻	20時00分
実施日	中止	中止	開始時刻		終了時刻	
作業:	ホテル鑑賞会					
課題:	ホテルはどこに棲む？					
目的:	ホテルの生育できる環境を理解する。					
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻 義和					
	参加者名:					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容:					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
留意事項:	----- ----- -----					
	----- ----- -----					
	----- ----- -----					
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		事務局				
実施予定日	6月17日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	11時00分
実施日	6月24日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
作業:	補植					
課題:						
目的:						
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻 義和					
	参加者名:					
	開始時刻	10:00			終了時刻	12:00
	実施内容:					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
留意事項:	----- ----- ----- -----					
	----- ----- -----					
	----- ----- -----					
	----- ----- -----					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	7月8日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	13時00分
実施日	7月8日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	21時00分
作業:	◎一番草(草取り、根掻き) ◎畦草刈り					
課題:	田んぼに何がいます?					
目的:	オタマジャクシ、ミジンコなど生き物でいっぱいになる田んぼでなにが起こっているか考える。					
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:	講師:石川氏					
実施記録:	指導担当者名:尾辻 義和					
	参加者名:別途出席表参照					
	開始時刻	10:00			終了時刻	21:00
	実施内容:					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
留意事項:	----- ----- -----					
	----- ----- -----					
	----- ----- -----					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		事務局				
実施予定日	8月24日	金	開始時刻	9時00分	終了時刻	12時00分
実施日	8月24日	金	開始時刻	10時00分	終了時刻	21時00分
作業:	夏祭り準備					
課題:						
目的:						
内容:	●テント張り●ちょうちん付け●やぐら紅白テープ巻き●掲示板設置●当会は焼き鳥の模擬店として参加する。					
要領:						
準備:	●備長炭15Kg2箱●ビニールパック、ビニール袋、輪ゴム、アルミホイール●食材(串焼き鳥1日約2000本、焼き鳥用タレ)●保温用ダンボールケース					
用具:						
服装・装備:						
担当者:	柏野夏祭り準備					
実施記録:	指導担当者名:尾辻 義和					
	参加者名:					
	開始時刻	10:00			終了時刻	21:00
	実施内容:					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
留意事項:						
----- ----- ----- -----						
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	8月24日	金	開始時刻	13時00分	終了時刻	21時00分
実施日	8月24日	金	開始時刻		終了時刻	
作業:	柏野夏祭り参加(焼き鳥)					
課題:						
目的:	地域の祭りに参加し、交流を図る。					
内容:	●2000本の焼き鳥を焼いて、1本100円で販売する。					
要領:	●焼き鳥は冷凍なので、開封して自然解凍する。●発泡ダンボールの箱で保存する。●タレは焼いた後1回だけ付ける●					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻 義和					
	参加者名:別途出席表参照					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
留意事項:	----- ----- -----					
	----- ----- -----					
	----- ----- -----					
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	8月25日	土	開始時刻	13時00分	終了時刻	21時00分
実施日	8月25日	土	開始時刻	10時00分	終了時刻	13時00分
作業:	柏野夏祭り参加(焼き鳥)					
課題:						
目的:	地域の祭りに参加し、交流を図る。					
内容:	●2000本の焼き鳥を焼いて、1本100円で販売する。					
要領:	●焼き鳥は冷凍なので、開封して自然解凍する。●発泡ダンボールの箱で保存する。●タレは焼いた後1回だけ付ける●					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻 義和					
	参加者名:別途出席表参照					
	開始時刻	10:00			終了時刻	13:00
	実施内容:					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
留意事項:	----- ----- -----					
	----- ----- -----					
	----- ----- -----					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		事務局				
実施予定日	8月26日	日	開始時刻	9時00分	終了時刻	12時00分
実施日	8月26日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
作業:	夏祭り片付け					
課題:						
目的:						
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:	柏野夏祭り(片づけ)					
実施記録:	指導担当者名:尾辻 義和					
	参加者名:					
	開始時刻	10:00			終了時刻	12:00
	実施内容:					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
留意事項:	----- ----- ----- -----					
	----- ----- ----- -----					
	----- ----- ----- -----					
	----- ----- ----- -----					
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	9月2日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	11時00分
実施日			開始時刻		終了時刻	
作業:	田んぼ生き物観察					
課題:	田んぼに何がいますか？					
目的:						
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容:					

留意事項:	-----					

備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	9月2日	日	開始時刻	11時00分	終了時刻	13時00分
実施日	9月9日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
作業:	カカシ作り					
課題:	カカシって何してるの？					
目的:	稲の穂に付いた糶をねらって鳥が来る。人も鳥も生きていることを考える。					
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻 義和					
	参加者名:別途出席表参照					
	開始時刻	10:00			終了時刻	12:00
	実施内容:					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
留意事項:	----- ----- ----- -----					
	----- ----- -----					
	----- ----- -----					
	----- ----- -----					
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	10月6日	土	開始時刻	10時00分	終了時刻	13時00分
実施日			開始時刻		終了時刻	
作業:	◎ハザ掛け準備 ◎稲刈り					
課題:						
目的:						
内容:	●ハザ掛けをつくる(南北2列)●稲刈りはもち米から先にする●うるちと混ざらないように注意する。					
要領:	●ハザ掛けの足場を先に刈る●足は垂木3本1組として三脚を作る●三脚3組で1列とし、2列作る●梁は2段にする。2段目は釣り下げにする●梁の竹は細ければ2本組にする					
準備:	●足になる垂木、3本1組、6組分●梁にする竹(10m)10本くらい●網掛け用竹棒(3m)15本くらい●鳥除け網40mくらい●荒縄(太)1巻●結束用稲わら					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻 義和					
	参加者名:					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容:					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
留意事項:						
----- ----- ----- -----						
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	10月7日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	13時00分
実施日	10月7日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	15時00分
作業:	◎稲刈り ◎レンゲ種まき					
課題:	刈った稲を干すのはなぜ？					
目的:	稲を干すのはなぜなのか考える。					
内容:	鳥除けの網を張る。					
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻 義和					
	参加者名:別途出席表参照					
	開始時刻	10:00		終了時刻	15:00	
	実施内容:					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
留意事項:	----- ----- -----					
	----- ----- -----					
	----- ----- -----					
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	11月4日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
実施日	11月4日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	15時00分
作業:	籾摺り					
課題:						
目的:						
内容:	●種籾から籾殻を取る					
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻 義和					
	参加者名:別途出席表参照					
	開始時刻	10:00			終了時刻	15:00
	実施内容:					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
留意事項:	----- ----- ----- -----					
	----- ----- ----- -----					
	----- ----- ----- -----					
	----- ----- ----- -----					
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	2月3日	日	開始時刻	13時00分	終了時刻	15時00分
実施日	2月3日	日	開始時刻	13時00分	終了時刻	15時00分
作業:	縄織い、草鞋づくり					
課題:	昔の人は稲藁でさまざまな生活に必要なものを作ってきました。そのひとつが縄です。					
目的:	稲藁を使って縄を織うことを通して先人の知恵を学ぶ。					
内容:	稲藁を使った縄織い。					
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻 義和					
	参加者名:別途出席表参照					
	開始時刻	13:00			終了時刻	15:00
	実施内容:					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
留意事項:	----- ----- ----- -----					
	備考:					

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	3月10日	日	開始時刻	11時00分	終了時刻	15時00分
実施日	3月10日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	13時00分
作業:	「田んぼの学校」卒業式(反省会)					
課題:	米つくりを終えて					
目的:	この1年で考えたこと、学んだことを確認する。					
内容:	●軽食を取りながら行う。●●					
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻 義和					
	参加者名:別途出席表参照					
	開始時刻	10:00			終了時刻	13:00
	実施内容:					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
留意事項:	----- ----- -----					
	----- ----- -----					
	----- ----- -----					
備考:						

4. 会計報告

2018 年度収支決算

	科目	コード	金額	備考
収入の部	繰越金	1000	30,380	
	受講料	1110	538,500	
	事業収入	1120	168,333	柏野夏祭り模擬店収益等
	会費	1210	46,000	
	寄付	1310	0	
	預かり金	1320	38,000	米代他
	立替入金	1330	75,710	
			0	
収入の部合計			896,923	
支出の部	消耗品費	2110	139,847	
	通信費	2120	0	
	材料費	2130	60,340	種など
	交際費	2140	10,892	
	会議費	2150	47,738	
	教材費	2160	5,173	
	講師料	2170	200,000	
	講師補助費	2171	147,000	
	保険料	2180	42,750	
	燃料費	2190	1,975	
	印刷費	2200	2,000	
	修理費	2210	0	
	光熱水費	2220	10,000	
	賃貸料	2230	6,600	ふれあいの家
	交通費	2240	17,478	
	広報費	2250	20,000	インターネットサーバ他
	作業報酬	2260	16,000	
	研修費	2270	0	
	預かり金支出	2310	38,000	米代
	立替金	2320	75,710	
	手数料	2330	0	
	参加会費	2340	32,500	
支出の部合計			874,003	
収支差額			22,920	

5. おたより

田んぼからのおたより2018

第1号 2018年4月15日発行

みなさん、お元気ですか。いよいよ「田んぼの学校」が始まりました。この「おたより」はこれから「田んぼの学校」とみなさんとのお互いの架け橋として創られます。内容は、「田んぼの学校」からのお知らせや、みなさんからのご意見などです。「田んぼの学校」についてわからないことがありましたら、お知らせください。私たち「田んぼの学校」のスタッフも18年目になりました。気がついたこと、いたらないことがありましたら教えてください。わからないことも質問してください。

体験をより充実させる為に

さて、「田んぼの学校」では、みなさんが田んぼでやったこと、見たこと、感じたことを記録することをお勧めします。ノートか野帳（野外観察用のフィールドノート）を用意し、思い思いに記録してください。できましたら、写真も有るといいと思います。その日にあったこと、学んだことをお子さんと一緒に振り返ることで、体験がより充実したものになります。

種はつながっている

お米の起源は約15、000年前、インドもしくは中国雲南で始まったそうです。お米も最初は野生のもので、昔の人は野生の種をまいて育てたようです。そのうちに、まいて育てた稲から種をとるようになり、その種を持って東へ移り住み、または、東の地方にいる人に伝えられ、2、000から3、000年前に日本に伝わったといわれていましたが、それより以前、6、000年前の縄文時代に稲作の痕跡が見つかっています。

お手元にある種籾は、そのときの種とつながっています。品種改良はされていても、遺伝子という形でつながっているのです。

人間を含む多くの動物（昆虫など）もお米よりもさらにさかのぼる年月にわたってつながっています。機会があるようでしたら、自分たちのルーツをわかる範囲で追いかけてみてはいかがでしょうか。

つながらない種

科学が発達して、いろいろなことができるようになりました。その中でも重要なもののひとつに遺伝子に関する技術や発見があります。遺伝子組み換えは、はるか昔からつながっているお米の種に、つながらないものができるということを意味しています。大変難しい問題ですが、一度考えてみる必要があります。

種子法廃止

昨年、種子法の廃止する法案が決まり、今年の4月1日に廃止となりました。農作物などの種子に関する問題も含めて、この廃止により、大きな影響が出ることは必至です。ネットなどに色々な情報があります。どのような問題があるのか、ぜひ確認してみてください

い。
みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

.....

4月15日(日)の学習 内容「種粃(たねもみ)の準備」 場所「自宅」

昔から、お米の豊作を願わないものはいませんでした。その最初の仕事が種粃の選別です。中身の詰まった重い種粃が丈夫な稲に育つことを昔の人は経験的に知っていました。

ではどのようにして重い種粃と軽い種粃を区別したのでしょうか。昔の人は、泥水に種粃をつけて沈んだ種粃を使っていました。浮いた種粃は軽くて悪い種粃として選別していたのです。

今は、塩水を使います。食塩水に種粃をつけると重くて良い種粃は沈み、軽くて栄養分の少ない種粃は浮きます。これを「塩水選」といいます。真水では沈む種粃も食塩水では浮くのはなぜでしょうか。おとうさん、おかあさん、子どもといっしょに考えましょう。

それでは、入学式でお渡しした種粃(もち米で銘柄はマンゲツモチ)で塩水選をやってみましょう。

1. 準備

鍋やボールなど適当な入れ物を用意して下さい。

2. 食塩水

真水(水道水でも可)200ccに塩16gを溶かして下さい。この食塩水の比重は約1.08です。もち米はこの食塩水で塩水選をします。かなりしょっぱい食塩水です。



3. 塩水選

この食塩水に種粃をつけてください。
種粃全体をこの塩水につけ、ここで、沈んだ種粃が良い種粃です。浮いた種粃と沈んだ種粃を別にしてとりだし、それぞれ水で洗ってください。(塩分がついたままでは発芽に悪い)
水の表面張力で浮いている場合がありますので、注意してください。

4. 芽だし

次に、発芽を促すために種粃を新鮮な水に浸けておきます。選別した種粃の両方を同じように別々に水につけてみてください。15℃の水で、約1週間つけると発芽します。20℃なら5日くらいになります。水の温度が高いと早く発芽します。4月23(日)が種まきの予定ですが、それより早く芽が出たら(芽と根が1mm位になったら)、水を切って当日まで冷蔵庫に入れておいてください。低温にすることで発芽の成長が一時的に止まります。くれぐれも芽や根を伸ばしすぎて、モヤシのようにしないようにしてください。

芽出しに使う容器は大き目なものにし、水をたっぷり入れてください。

以上

田んぼからのおたより2018

第2号 2018年4月21日発行

みなさん、お元気ですか。もうこの「おたより」の2回目になりました。

いよいよ、田んぼでの仕事が始まります。田んぼでは、たくさんの生き物たちがみなさんをむかえてくれます。いろいろな草花、虫、鳥などです。どんな生き物に出会えるか楽しみですね。

わからないことがある場合は、遠慮なくお問い合わせ（尾辻 080-5012-5327）ください。

畑の広さの単位

田んぼの広さの単位についてちょっと調べてみました。私たちの田んぼは、3畝（せ）あります。約100坪（つぼ）。坪は畳2枚（3.3平方m）です。

1畝（約99平方m）、10畝で1反（たん、約991平方m）、10反で1町（ちょう、約9917平方m）です。

1畝は約1アール、100アールで1ヘクタールなので、1町が約1ヘクタールになります。

豊臣秀吉は、太閤検地と呼ばれる田畑の全国測量を行いました。そのとき、度量衡の統一も行われました。そのときに、1反360歩を300歩にしました。1畝30歩となり、1アールにきわめて近い値になりました。秀吉（実際に指揮したのは石田三成）は1アールという単位を知っていたものと思いましたが、調べた範囲ではそれらしい記述が見つかりません。反あたりの税収を上げるために300歩にしたという記述がありました。どうでしょうか。みなさんも調べてみませんか。

苗づくり

私たちの田んぼでは、田んぼの中に苗床を作ります。温室などで苗を作らない場合、平均気温が20度以上にならないと成長に影響があります。今年は、例年より暖かい日が多いので、苗の成長が順調に進みそうです。

お米を生産する農家では、機械植えが普通なので、苗は温室で育てられ、5月初旬(関東)には田植えが行われます。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



4月21日(土)の学習(10:00~11:00) 田んぼの植物観察会

4月21日(土)の学習(11:00~15:00) 苗床作り

4月22日(日)の学習(10:00~12:00) 種まき

内容: 田んぼの植物観察会、苗床作り、種まき

場所: 田んぼ

持ち物その他: 作業着、軍手、昼食、飲み物

田んぼの植物観察会(21日)

田んぼを中心に野草の観察会を行います。

苗床作り(21日)

苗床(なえとこ)は種籾をまいて稲の苗を育てるところです。発芽した種籾はここで丈夫な苗として育ちます。

1. 田んぼの南側寄りに1m幅、4m長の広さで苗床用の場所を東西方向に2本確保し、草を刈り取ります。
2. 耕運機でできるだけ細かく耕します。
3. 中央に1m幅の短冊状の畝(うね)を作ります。高さは周囲と同じ高さにします。
4. 両脇に10cmくらいの深さで水路をつけ、用水の引き込み口から水路をつなげて水を引き込めるようにします。
5. 畝は草の根やごみを取り除き、大きな土の固まりはふるいで選り分けて手ですりつぶします。



畦草刈り

農家の人にとって雑草(正確にはいろいろな野草というべき)は天敵と考えられています。雑草は、作物の栄養分を取ってしまったり、成長を妨げたりするからです。雑草取りは農家の人にとっては大変な重労働なので、除草剤などが使われたりしますが、有機農法では除草剤は使いません。最近では、雑草を味方にする研究なども行われています。いずれにしても、まわりの畑に雑草の種が撒き散らされることも有るので、雑草をそのままにすることはできません。

1. 小さい草刈りガマで畦(あぜ)の草刈りをします。
2. 刈り取った草は適当な場所に積み上げておきます。後日、荒起こしのときに田んぼに漉き込みます。このように刈り取った草は緑肥と呼ばれ、立派な有機肥料です。漉き込まれた草は土の中で腐敗して肥料になるからです。

畑の草取り

暖かくなると、畑にもどンドン草が生えてきます。小さいうちにとるのが賢明です。

種まき(22日10時から)

みなさんに準備していただいた種籾(もち米)と当会が準備した種籾を苗床に蒔きます。蒔き方はいろいろ有りますが、ちょうど良く蒔く(?)のがいちばん。

1. 苗床をもち米用(南側)、うるち米用(北側)にわけます。
2. 用意した種籾を厚すぎず、薄すぎず、ちょうど良く蒔きます。
3. 各自準備した種籾も、蒔きます。
4. 蒔いた種籾の上に薄く(3から5mmくらい)細かい土をかけます。(覆土・ふくど)
5. 板などを使ってある程度土を固めます。(鎮圧・ちんあつ)
6. 苗床全体にかまぼこ状にネット(寒冷紗・かんれいしゃ)をかけます。(防鳥)
7. 水路に水を引き込みます。水はかれない程度に苗床の周囲に回るようにします。



みなさん、お元気ですか。

私たちの田んぼは佐須の用水に依存しています。現在も水利組合によって私たちの使っている用水の支流は田んぼで水を使う時期に泥さらいを行っています。本流は残念ながら、手つかずの状態です。26年前、佐須用水の貴重な環境に注目した私たちは、ゴミが大量に捨てられている用水路の清掃を兼ねた生き物観察会を始めました。最初の1、2年はトラック1台分位のゴミを回収したこともありましたが、いまではその10分の1くらいまで減っています。それでも、毎年ゴミが回収される状況が続いています。昔は、用水で洗い物などを行っていることもあり、ゴミを捨てるようなことはなかったと思いますが、今では、用水に依存することがない人が多く住むようになって、その大切さが意識されていません。私たちの活動で、用水の貴重さが理解されることを期待しています。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

4月22日(日)(13:00~16:00)用水路清掃、生き物観察会

- 内容： 野草観察会、用水路清掃、生き物観察会
場所： 佐須用水、田んぼ
持ち物その他： 作業着、軍手、用水路に入ることのできる靴（サンダルは不可）
子供の着替え（水につかってしまうことがあります）
昼食、種籾

用水路清掃

私たちの田んぼは、カニ山奥の谷戸から湧き出る水を利用しています。このように水を地域の人たちと共同で利用する場合、利用する人たちが集まって組合を作り、共同で管理することが大昔から行われてきました。「田んぼの学校」でも利用させていただき感謝の意味を込めて、また、そこに生きる生き物たちが棲みやすいようにと清掃活動を続けてきました。



用水路生き物観察会

用水路清掃にあわせて行われるのが用水路の生き物観察会です。田んぼに水を供給してくれる用水は、同時に、多くの水生生物の恵みにもなっています。湧水は元は直接飲料水に使えるほどきれいなものですが、多くの人々が周りに住むようになり、その影響を受け、次第に飲料水としては使えなくなりました。（今でも沸騰させれば飲めます）用水路の生き物を観察することは、水の汚れ具合を知る指標にもなります。そこに生きている生き物が、この水の安全性を証明してくれているわけです。

田んぼからのおたより2018

第4号 2018年5月20日発行

みなさん、お元気ですか。私たちの田んぼの最大の問題は水です。調布市は私たちの田んぼがある深大寺・佐須地域について里山の風景を残すために都市農業を応援する事業を実施しました。その中に、佐須用水の流量確保のための事業があり、井戸が掘られて、水が少ない場合に井戸からくみ上げることが出来るようになりました。田んぼを続けるために長年の、最大の懸案が解決し、一安心です。

柏野小学校裏のホテル園コーポ前の田んぼは毎年草がいっぱいです。私たちの田んぼも草でいっぱいでした。草が生えないということは、そこには草の種がまったくといっていいほどないということを意味しています。それでも草の種は飛んできたり、動物が運んだりして芽を出し、成長して、やがて種を落としますが、その前に草を取ることで次の世代を作らなければ草のない畑になります。除草剤の助けがなければ、大変な仕事です。雑草が全く生えない田んぼはちょっと気になります。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



5月19日の田んぼ

苗の様子



.....

5月20日(日) 10:00~12:00 の学習

内容 ◎堆肥入れ◎畦草刈り◎畑草取り◎荒起こし◎くろつけ準備

場所「田んぼ」

堆肥入れ

堆肥置き場から堆肥を田んぼに運び漉き込みます。堆肥としてはできるだけ十分に発酵したものを使いますが、そうでなくても、土の中で更に分解されて肥料となります。

1. 堆肥をリヤカーで4, 5杯分田んぼに運んできます。
2. 堆肥を田んぼ一面にまんべんなく撒きます。
3. 小枝などの硬いものは分解されにくいので取り除きます。

畑と畦の草刈り

くろつけを行うために、畦の草を刈り取ります。畑の草取りも一緒に行います。

荒起こし

田んぼ全体を耕運機で荒く耕し、堆肥を土に漉き込みます。

くろつけ準備

畦の整理(昨年くろつけで盛った土を削ったり、崩れている部分を補修)を行ない、畦にそって水路の水を引き込み、くろつけの準備をします。

田んぼからのおたより2018

第5号 2018年6月3日発行

みなさん、お元気ですか。

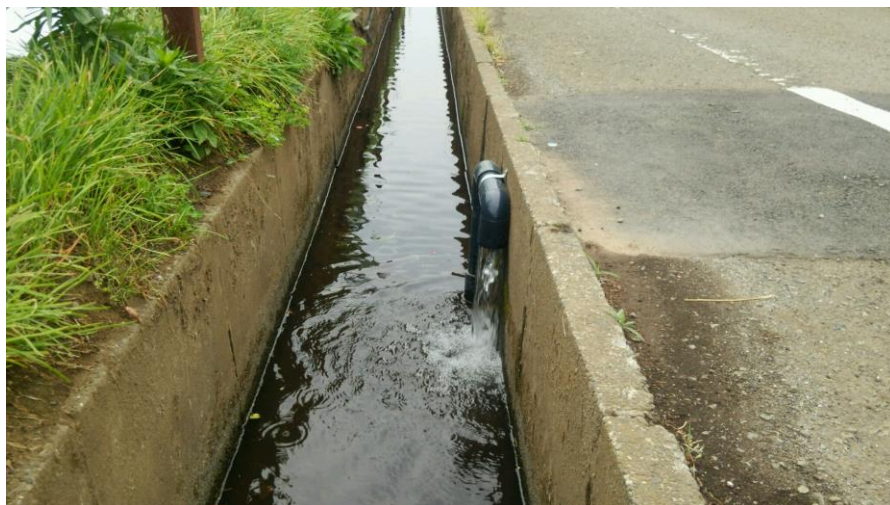
田植えの時期に気になるのが、用水の量です。調布市は、佐須・深大寺地域の風景を維持するための事業の中で田んぼの水を確保するために井戸を掘りました。今年は5月の降雨量が例年より多く、用水の量も普段より多い感じです。井戸のお世話にならずに済みそうです。

個人的なことになりますが、田んぼをはじめから生活の中で一番変わったことが、雨を単純に毛嫌いすることがなくなったことです。それまでは、雨になると外出が億劫になったりしたのですが、結構雨を楽しめるように変わったのです。現金なものですが、雨が大切な作物の生育に欠かせないものであり、生き物にとってなくてはならない水を供給する循環の一翼を担っている点で改めてその機能を見直したいです。

みなさんも、雨を見直してみませんか、そして楽しんでみませんか？

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

井戸の水です。



6月3日(日)(10:00~14:00)の学習

内容「くろつけ」 場所「田んぼ」

服装 どんこになってもいい服装にしてください。子供は着替えを持ってきてください。
足で泥をこねたりしますので、長靴ではできません。基本的には裸足、地下足袋、靴下でやります。

持ち物 飲料水、タオル、着替え、昼食

くろつけ

－「くろ」とは畦（あぜ）のことです。「くろつけ」は畦から水が漏れないようにするための作業です。泥をこねて、畦に泥を塗りつけて、表面を滑らかにします。土だけではたくさんの小さな穴が空いているので、水が漏れてしまいます。土を泥状にすることで、土の粒の間のすきまがなくなり、水が漏れにくくなります。写真はくろつけの様子です。

1. 畦にそって引き込まれた水と田んぼの土をまぜて泥をこねる。泥は畦の天上部と内側に壁塗りをするように塗り付けるのにちょうどよい硬さにするのが早く仕上げるコツである。
2. くろつけは水の引き入れ口からみて一番奥の部分から仕上げていく。
3. くろつけが終わったら、畦が乾かないように水路をつけて水を引き込んでおく。
4. 田んぼの内部にも水が入るように水路をつける。
5. 水路に水がなくならないように引き入れ口を調節する。



田んぼからのおたより2018

第6号 2018年6月9日発行

みなさん、お元気ですか。いよいよ田植えです。今年は5月の雨量が例年より多く野川の水量も例年より多いような気がします。

これまでも、いづれか水不足はありましたが、ほとんど何とか耐えました。水争いは昔から命がけのものだったようです。「我田引水」という言葉がありますが、他人のことを考えず、自分に都合が良いように考えたり、ものごとを行ったりすることという意味があります。このような言葉が残って使われるほど、他の田んぼのことを考えずに自分の田んぼにだけ水を引くことが実際にあったということでしょう。農業用水のほとんどは、上流から順に取水されるため、下流の農家は不利になります。お米が年貢として納められていたことを考えると、仕方がないことのようにも思えますが、いかがでしょうか。

今週の土曜日には、しろかき、日曜日には田植えを行います。すでに関東は梅雨入りということですが、土曜日、日曜日の天気予報は曇りと曇り時々雨です。梅雨の合間のぎりぎりの天気になりそうです。

今年のくろつけ



昨年の苗取りの様子



6月9日（土）（10：00～15：00）の学習

内容「しろかき」「苗取り」 **場所**「田んぼ」 **服装**「かなり汚れてもいい作業着」
足元「はだしか地下足袋、またはくつした」 **持ち物** 子供の着替え、タオル、昼食、水筒

しろかき

田んぼに水を引き、土と混ぜて、どろどろ状態にし、平らにして田植えの準備をすることを言います。大半に作業は耕耘機でやりますが、平らにならすのは人でなければできない仕事で、けっこう重労働です。

苗取り

苗床から元気に育った苗を取ります。乾いた土の状態ですと方法と、水を引いて土を洗いながらとる方法があります。今回はしろかきと同時なので水を引いて苗を取ります。

苗はもち米とうるち米と混ざらないように、もち米を取ってから、うるちを取ります。取った苗は、一握りの大きさにして稲藁で結わえ、コンテナに入れて、水路につけておきます。

6月10日（日）（10：00～12：00）の学習

内容「田植え」 **場所**「田んぼ」 **服装**「かなり汚れてもいい作業着」
足元「はだしか地下足袋、またはくつした」 **持ち物** 子供の着替え、タオル、水筒

田植え

お米の苗をしろかきの終わった田んぼに植え付けます。田んぼの南側から植え付けていきます。最初にもち米（全体の約半分）、次にうるち米を植え付けます。

1. 25cm間隔で目印のついた紐を用意して、東西方向に張る。（両端を人が持つ）
2. 苗を植える人は一握りの苗を持って、紐の北側に南を向いて適当な間隔で並びます。
3. 一度に植える苗は2、3本くらいで、大きな苗を植えるようにします。
4. 合図があったら、自分の持ち分に植え付ける。植え付ける場所は、紐の手前側に、目印のあるところ。
5. 自分の分が終わったら、一步下がって、これから植え付けるところを手でならす。
6. 全員が終わったら、紐を25cm北側に移動する。
7. 以上を繰り返していく。

田んぼからのおたより2018

第7号 2018年7月08日発行

みなさん、お元気ですか。

今年は例年より早く梅雨が明けました。5月の降水量が多かったので十分な水量で田植えができました。ただ、6月の雨量は逆に少ないため、夏の野川が心配です。田んぼでは、一大勢力となったコナギもすでに芽を出しています。今年も、これを徹底的に取るつもりでいます。

さて、田んぼの生き物たちはどうなっているのでしょうか。ハイイロゲンゴロウもミズムシも来ています。アマガエルのオタマジャクシもたくさん泳いでいます。いつものようにたくさんの生き物がいるといいですね。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



田植えの様子



花をつけたコナギ

7月8日（日）（10：00～12：00）の学習

内容「畑の草取り」「草取り、根搔き」「畦草刈り」「生き物観察」

場所「田んぼ」

服装 田んぼに入って作業のできる服装できてください。草取りは大人だけで行います。

持ち物 タオル、軍手、蚊取り線香（携帯用）、飲み物

草取り（一番草）

この時期に行う草取りを一番草といいます。私たちの田んぼは、これまであまり草取りの必要がありませんでしたが、コナギがだいぶ目立つようになりました。生き物観察の後、草取りをします。

根搔き

根搔きと言う作業は、稲の根の回りの泥をかき回して空気を送ったり、根を切ることで、根の生育を促進する目的があります。昔は、草取りと根搔きを両方を行う道具がありました。

根搔きの作業も私たちの田んぼでは、やっていません。根搔きはやったほうが良いという意見と、必要がないという意見があり、必ずしもどちらが良いとは言いきれないようです。

生き物観察

田んぼに水が入ると、田んぼには劇的な変化が現れます。その様子を観察します。

田んぼからのおたより2018

第8号 2018年8月24日発行

みなさん、お元気ですか。毎年、同じように田植えをしていますが、田んぼの生き物をみると、なかなか同じようにならないというのが実感です。今年は、アマガエルのオタマジャクシが早めにカエルになりました。また、生まれる時期も幅があったようで、体長3cmから1cmまでのオタマジャクシと一緒に泳いでいました。

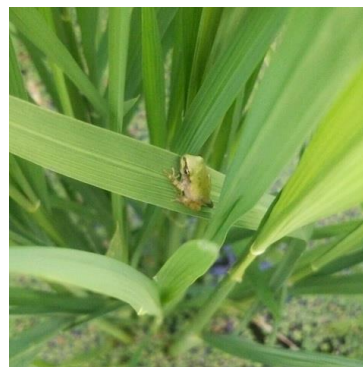
さくらがちょっと早めに咲いたように、田んぼでも成長が早めです。例年8月初めに出穂だったのが、今年はもう出穂しました。

今年も、例年のように、用水路と田んぼの一体化による水管理をしています。水路の堰とセリの畑と田んぼの水面がほぼ一致していて、基本的に水中の生物が行き来できる状態になっています。そのため、堰が外れると水が全部水路に流れてしまう欠点もあります。

田んぼはプランクトンが豊富で魚類、両生類、水生昆虫などにとって、餌に不自由しない場所となっています。昔の田んぼは大体そのようになっていたはずですが。殺虫剤や農薬、化学肥料などが使われるようになって、それらが用水路に流出することが問題となったので、田んぼの水を水路に戻すことをやめてしまいました。佐須の田んぼも用水路の整備を行った時点で田んぼに引き込んだ水は地中に浸透させるか、下水に流すようになっていました。私たちの田んぼは基本的に水路の水を汚すことがないため、一体化を考えていました。

7月29日の田んぼ

出穂したキヌヒカリ→



柏野夏祭り

「田んぼの学校」では、地域の方々との交流を積極的に行うため、毎年柏野小学校で行われる地域の夏祭り「柏野夏祭り」に模擬店「焼鳥屋」で参加しています。今年の日程は以下の通りです。



8月24日(金)	9:00から12:00	会場設営
8月24日(金)	16:30から20:00	夏祭り
8月25日(土)	16:30から20:00	夏祭り
8月26日(日)	9:00から12:00	片づけ

夏祭りへの参加はボランティアで、自由参加ですが、焼き鳥を焼く体験は大変楽しく、また貴重(他ではできない体験)です。当会の貴重な運営資金を作る場でもあり、是非参加してください。特に金曜日はスタッフが足りません。奮って参加を。夏祭りの子ども向け模擬店もゲーム、綿飴、かき氷など盛りだくさんで、

子どもになかなかの評判です。参加の希望は、別に送信する連絡メールにて

8月10日までに返信ください。参加の時間帯も自由です。

参加枠	日付	時間帯	内容	備考
A	8月24日(金)	9:00~12:00	設営	人手不足です
B	8月24日(金)	13:00~16:00	仕込み	人手不足です
C	8月24日(金)	16:00~18:00	焼き、販売	人手不足です
D	8月24日(金)	18:00~20:00	焼き、販売	人手不足です
E	8月25日(土)	13:00~16:00	仕込み	
F	8月25日(土)	16:00~18:00	焼き、販売	
G	8月25日(土)	18:00~20:00	焼き、販売	
H	8月26日(日)	9:00~12:00	片付け	

つまみ、お酒の差し入れ大歓迎です。詳しいことは、電話でお尋ねください。

田んぼからのおたより2018

第9号 2018年9月2日発行

みなさん、お元気ですか。今年は種まきしてからいきなり暑い日が続き、全体に生育が早めになっています。稲刈りの繰り上げも考える必要があるかもしれません。

柏野小学校の夏祭りは8月24日、25日に無事開催され、準備した4,500本のうち、金曜日約2,200本、土曜日約2,300本を売上げ、両日完売となりました。お手伝いいただいた皆様に、改めて御礼申し上げます。

さて、9年前スズメ被害が拡大し、収穫が減るという大変な事態になりました。その後、毎年スズメの被害を防止するため、網をかけています。今年はちょっと生育が早いので、早めに防鳥網を張りました。

「スズメ対策」の定番といえば、案山子（かかし）です。大いに工夫してスズメの恐がる案山子を作ってください。光ったり、音が出たりするものがあるといいかな？ ことしも創造性豊かな案山子を期待しています。

作る場所については、田んぼの付近ではスペースが取れないため、佐須児童館の敷地を借りて実施することとなりましたので、ご注意ください。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



8月29日の田んぼです。

9月2日（日）（10：00～13：00）の学習

内容 「カカシ作り」

場所 佐須児童館奥の空き地（佐須ふれあいの家前）

持参するもの 案山子の材料（垂木以外のもの）、大工道具

田んぼの観察

田んぼの生き物観察については、今回は各自行くこととします。この時期、どんな生き物がいるか、じっくり観察してください。

カカシ（案山子）作り

芸術の秋とも言います。調布のすずめは少し賢いので、みなさんの創意工夫をおおいに期待しています。芸術性を追求するか、実用本位でいくか家族会議で検討してください。一家族で案山子一体作っていただきます。骨格となる部分の垂木は事務局で用意します。案山子に着せる服や、飾り付けなどの材料や大工道具は持参してください。



9年前のスズメに食べられた様子

田んぼからのおたより2018

第10号 2018年9月23日発行

みなさん、お元気ですか。いよいよ稲刈りです。4月22日に種まきをしてから5ヶ月ちょっと、6月10日に田植えをしてから3ヶ月と16日、今年は苗の成長が良く、梅雨もいつもより早く明け、暑い日が続いたせいか、稲刈りも2週間も早く繰り上げることとなりました。去年は、8月の長雨で、予定を遅らせましたが、天気には左右されることはいかんともしがたいと。

9月9日の田んぼと案山子⇒

調布産の、自分たちの新米を食べるのが今から楽しみです。うるち米は「キヌヒカリ」という品種です。有名なコシヒカリの遺伝子を受け継いでいる品種です。もち米はマンゲツモチという品種です。



← はざかけされた稲

刈り取った稲は「はざかけ」をします。2週間くらいで稲は乾燥し、脱穀できるようになります。十分に乾燥していないと脱穀した粃が発酵してしまうことがあります。

はざかけ(はさかけともいう)の「はさ(稲架)」は刈り取った稲をかけて干すしくみのことです。日本全国にいろいろな形があります。田んぼの畦に木がある光景を見たことがありますか。

あれは、はざかけのために植えられたはんのき(榛の木)です。(カバノキ科の落葉高木。山野の湿地に自生。幹は直立し、15メートルに達する。)湿地に直立してくれるということは、はさの心棒にはもってこいですね。

稲刈りは、刈り取り用のカマを使います。カマの扱いには、十分気をつけてください。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

.....

9月23日(日)(10:00~14:00)の学習

内容「ハザ掛け準備、稲刈り」 場所「田んぼ」

服装 長袖、長ズボンの作業着、軍手

持ち物 昼食、飲み物

ハザ掛け準備

はざは、1段掛けのものを南北に4列田んぼ内に設置します。

1. 足場用の垂木3本を1組にして荒縄で組んで3脚にしたものを、合計12組作ります。
2. 1列につき、3組の足場を並べます。
3. 10m前後の竹竿を3本くらい束ねて丈夫な1本の竿にして、足場の上に固定します。
4. 必要に応じて、竿を補強してください。

稲刈り

午前はうるち米、午後はもち米の刈り取りをします。

1. 稲株を左手で握り、右手の鎌で根元から刈ります。
2. 刈り取った稲は1握り分づつを根元をクロスさせて2握りを1組にしておいていきます。
3. クロスしておかれた稲の束を濡らした稲わら3, 4本で根元を結わえます。
4. 結わえられた稲束をクロスしたところで左右に振り分けてはさに掛けていきます。
5. はさかけの周りに鳥除けの網を張ります。

田んぼからのおたより2018

第11号 2018年10月20日発行

みなさん、お元気ですか。今年も台風の影響と秋雨前線による天候不順が例年になく長引き、繰り上げる予定の稲刈りができずに、大幅に遅れてしまいました。稲刈り後は順調に乾燥ができました。2週間も乾燥させると稲わらの水分もなくなりずいぶんと軽くなります。

脱穀とは、稲から粃を分離させることです。大昔は千把扱き（せんばこき）というもので脱穀していました。鉄片を櫛の歯のように並べ、それへ稲穂をひっかけて、粃（もみ）をしごき落とします。約300年前の元禄年間（1688-1704）に考案されたようですが、いまでも農家の納屋にこれが残っていることがあり、昭和のはじめ頃までは使っていたのではないかと思います。

当会には、足踏み脱穀機（ミノル式）がありましたが、これは、1910年（明治43年）の発明といわれています。千把扱きに比べ8倍の能力があるそうです。脱穀機で落とした粃と藁くずを分別する機械が唐箕（とうみ）です。唐箕の前は、風を利用して箕に入れた粃と藁くずを振って分別していました。脱穀している時は、ほこりがたくさん出ます。ぼうしとマスクを用意してください。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

ハザ掛け（10月16日）



.....

10月20日(日)(10:00~13:00)の学習

内容「脱穀」、場所「田んぼ」

服装「作業着、ぼうし、マスク」

脱穀(だっこく)

稲穂から籾を取ることを脱穀といいます。籾の状態は種と同じで、長期保存する場合は籾の状態で行います。次の年の種にするものは特に種籾といいます。

縄文時代前期(6000年前)には日本で稲作がおこなわれていた遺跡(陸稲米)が見つかっており、弥生時代中期には北海道以外の日本全国で稲作(水稲)がおこなわれるようになったようです。その頃の脱穀はおそらく手か石器でしごき取っていたと思われます。

脱穀は、組合所有の脱穀機を使います。ガソリンエンジンで自走でき、あっという間に脱穀は終わります。

写真は自走式脱穀機



田んぼからのおたより2018

第12号 2018年11月4日発行

みなさん、お元気ですか。今週は、籾摺りと精米です。籾摺りは籾の外皮を取り除く作業です。江戸時代には土臼などが使われたようですが、現在はゴムロール式と衝撃式といういずれもゴムを使ったものになっています。現在、籾摺りと精米が両方兼用の中古の籾摺り精米機を使っています。

籾摺りによって籾殻(外皮)がとれた米を「玄米」といいます。最近はこの「玄米」を食べる人が増えてきました。これは、普通みなさんが食べている「白米」にくらべてビタミンB群、E、リノール酸、ミネラルなどの栄養価の高い成分が多く含まれていることや、便秘に効くということがあるためです。ただ、炊き方がややめんどろです。それでも、最近の炊飯器は優れたものが多いです。玄米も柔らかく炊けます。

「玄米」と「白米」の間に「胚芽米(はいがまい)」、「発芽玄米」というのがあります。以前から「白米」を10分として、ぬか部分の削り具合によって3分・5分・7分搗きというお米がありました。「胚芽米」は特に重要な「胚芽」(発芽する部分)を残すようにしたものを言うようです。「玄米」の表面には消化されにくい米ぬか層があり、「胚芽」を含めてこれを全部削り取ったものが「白米」になるわけです。「胚芽米」にもその削り加減で3分・5分・7分搗きなどがあります。「胚芽米」は米ぬかに含まれている前記の栄養があるうえ、「白米」と同じ様に炊くことが出来、消化吸収もいいということで、人気があるようです。

「発芽胚芽米」というのを聞いたことがありますか。「胚芽米」を研いだ後、40度くらいのぬるま湯に2時間ほどつけると、胚芽部分が膨らみます。詳しいことはわかりませんが、ぬるま湯につけることで発芽が進むようです。その後、普通に炊くと出来上がります。「胚芽米」と「発芽胚芽米」のどちらがおいしいか、どちらがより栄養価が高いかはよくわかりません。

最近、金芽米というお米が出回るようになりました。胚芽米よりの栄養価を残し、白米のおいしさを持つと言われます。日本のこの飽くなき探究心と技術にはほんとに感心します。皆さんもネットでおいしいお米を探してみて、ぜひ食べて、結果を教えてください。みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

脱穀機による脱穀



.....
11月4日（日）（10：00～12：00）の学習

内容「籾摺り」、「精米」 場所「田んぼ」

持ち物 すり鉢、軟式野球ボール（ゴムボール）

今回の学習は、作業がありません。籾摺りと精米の原理を説明し、籾摺り精米機の作業を見学していただきます。

籾摺り

脱穀で稲わらから取った稲の実を籾といいます。籾は種の状態、外皮に守られていますので、長期に保存が出来ます。籾から外皮(籾殻)を取り除いて「玄米」にする作業が籾摺りです。この言葉は文字どおり籾を擦りあわせることが語源になっています。籾殻は結構頑丈に出来ていて、つめを立てないと取れません。どうすればこの外皮をうまくとれるのでしょうか？みなさん、考えてみてください。持ってくる事ができる方はすり鉢とゴムの野球ボールをお持ちください。答えは田んぼで。

精米

籾摺りが終わった状態のお米が玄米と呼ばれます。玄米から胚芽米や白米にすることを「精米」といいます。もち米はぬかを全部取り、「白米」にします。うるち米はほぼ玄米にちかい状態を目標に精米します。籾摺り機と精米機は同じ物です。玄米を精米機にかけるだけなので、見学となります。時間内にお越しください。

田んぼからのおたより2018

第13号 2018年11月23日発行

みなさん、お元気ですか。稲刈り、脱穀も終了、粃摺り、精米も終わりました。いよいよ収穫祭です。

さて、私たちの作ったうるち米は関東で比較的多く栽培されている「きぬひかり」という銘柄です。茨城県では奨励品種になっています。コシヒカリの血統を受け継ぎ、炊きあがりの絹のような色つや、そして食味も好評ということです。お米の味は、新米の精米直後がよりおいしく味わえます。また、炊き方によっても味が変わってくるので、おいしく食べるには細心の注意を払ってください。おいしく炊くコツの一つはお米を研いだ後の「浸けおき」です。20度の水温の水で1時間つけると最適です。何かと忙しいおりですが、段取りを付けて、1時間浸けおきをやってみてください。

収穫祭のお知らせ

収穫祭は、作物の収穫を祝って行うお祭りです。毎年11月23日の勤労感謝の日に行ってききましたが、それなりに意味があります。この日は、「新嘗祭（にいなめさい）」が行われている日に当たります。「新嘗祭」は「しんじょうさい」ともいい、「新」は新穀を「嘗」はご馳走を意味します。毎年この日に全国の神社で行われ、新穀を得たことを神さまに感謝する新嘗祭は、五穀の豊穰を祈願した2月17日の祈年祭と対する関係にあるお祭りです。新嘗祭の起源は古く、『古事記』にも天照大御神が新嘗祭を行ったことが記されています。私たちの会では、収穫をもたらしてくれたすべてのものに感謝の気持ちを表すために収穫祭を行っています。出来るだけたくさんの人とお祝いしたいと思いますので、お友達などお誘い合わせの上、おいで頂きたいと思っております。お祝い事ですので、お酒やおつまみなどの持ち込みは大歓迎です。

つきたてのお餅を食べるときの具（おろし醤油、納豆、きな粉、あんこなど）をいろいろ用意しておりますが、ご自分の田舎で食べる具でこれはぜひというのがありましたら、みなさんにご披露してください。なお、お年寄りの方（70歳以上）、幼児は無料で参加いただけます。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



.....

11月23日（金）（9：00～15：00）の学習

内容「収穫祭」 場所「田んぼ」

持ち物 お椀、お皿、はし、飲み物、包丁、まな板

会費 会員 大人(中学生以上)400円、子供(小学生)200円（食材費に当てます）

非会員 大人(中学生以上)600円、子供(小学生)300円

高齢者、幼児は無料

酒代(お酒を飲む人)

その他 23日が雨の場合、11月25日（日）に延期します。

収穫祭

田んぼで取れたもち米（約20Kg）で餅つきを行います。最初の一臼は一年の感謝を込めて、竹内さんに献上します。二臼目からはいろいろな具といっしょに皆さんで味わっていただきます。

お餅の他には豚汁、焼き物（干物、焼き芋など）を用意する予定です。

参考までに餅つきの簡単な手順を説明します。

餅つきの手順

1. もち米の浸けおき

もち米は前日に研いで、水に浸けておきます。

2. 湯沸かし

蒸し器用の湯とは別にお湯をたくさん沸かします。洗い物や、臼、杵を温めておいたりするために使います。

3. もち米を蒸す

浸けおきしたもち米はざるで水を切った後、蒸し器に1升(1臼分)ずついれて蒸します。お米の芯が残らないように十分に蒸します。

4. こねる

蒸しあがったもち米は手早く臼に入れ、米粒の形がなくなるまで、杵でこねてすりつぶします。これもできるだけ早くやります。

5. 搗く

十分にこねたら、搗き始めます。臼の中の餅は搗きやすいように相方が手で寄せます。搗き手と相方の呼吸が大事です。また、餅が熱いため、手に水を付けますが、つけすぎると水っぽくなるので、注意が必要です。

搗いた杵がもちから反発力を感じるようになれば搗き上がりです。

6. 粉にまぶす

搗きあがった餅はそのままでは何にでもくっつくので、のし台で米粉や片栗粉でまぶします。

追伸

今年も、とれたお米を希望する方に1Kg400円で販売します。23日に一家族あたりうるち米(白米)1Kg販売します。もち米の販売については、未定です。

田んぼからのおたより2018

第14号 2018年12月2日発行

みなさん、お元気ですか。今回はカニ山でキャンプをします。カニ山は、田んぼの用水が湧き出ている谷の雑木林で、昔、たくさんの湧き水があって、沢ガニがたくさんいたのでこの名前が付いたようです。コナラ、クヌギといった武蔵野の雑木林を今も残しているところです。雑木林は、堆肥にする落ち葉や薪にするシバ、炭や薪にする材木を取るために、人が入って管理していた自然（二次自然ともいう）の森です。そのため、切り株からまた枝をのぼして大きくなる（萌芽更新という）コナラやクヌギの仲間が残され、木の背丈も10m位に維持されていました。ちょうど薪にしたり、炭焼きにするのにいい太さで切られるためにいつもそのくらいになるわけです。現在、都会にある自然を残すために、雑木林が残されることがありますが、その多くは、人間が手を入れないため、コナラ、クヌギなどが大きくなりすぎて、昔の「武蔵野の雑木林」の面影を残してはいません。カニ山も残念ながら、木が大きくなり過ぎ、人もたくさんはいるので、地面が固くなっています。本来の雑木林は、その地面にたくさんの水を含んで貯める保水機能も持っていて、湧き水が枯れない要因にもなっています。

調布市は、私たちの田んぼのある佐須地区において雑木林、畑、田んぼを保全する計画を実施することとなり、里山の保全に一歩前進しました。

右の写真は収穫祭



炭焼きキャンプの出欠連絡

準備の都合上、事前に出欠の連絡をお願い致します。[11月29日夜までにメール](#)でお名前、大人の人数、小学生の人数、幼児の人数を返信して下さい。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

.....
12月2日(日) 9:00~15:00)の学習

内容 炭焼きキャンプ 場所 カニ山

持ち物 食器(はし、皿、茶碗、お椀、コップ)、調理器(包丁)、着替え、おやつ
(飲み物はこちらで用意します)、空き缶(鉄板でできた茶筒やせんべいの箱などで、しっかりふたができるもの。炭焼きに使います)、炭材(炭にしたいもの。マツボックリ、ドングリ、栗、割り箸、花など)、差し入れ(自由です。おやつや酒の肴など歓迎)、お米(幼児を含む参加者一人1合)
(はチェックのためにお使ください。)

参加費 大人(中学生以上) 700円、小学生 400円、幼児 無料

その他 駐車場がないので、車での参加はご遠慮下さい。雨天の場合は中止(連絡網にて通知)とします。

スケジュール

9:00	集合	カニ山キャンプ場(かまどがあるところ)。 時間厳守
9:30	授業	火起こし(たき火の火付けの学習)、花炭焼き
10:00	昼食準備(父母)	
12:00	昼食、懇談	カレー、その他(検討中)
13:00	授業	しめ縄作り
15:00	片付け、解散	

田んぼからのおたより2018

第15号 2018年12月16日発行

みなさん、お元気ですか。関東の平野部や調布でも紅葉が見られましたが、なかなか寒くならないと思ったら、あっという間に冬の到来です。早いものはすでに葉を散らしています。

土づくり

落ち葉などによる堆肥作りは農業に一番大切な「土づくり」にかかせない作業の一つです。「土づくり」のなかで一つの柱となるのが栄養分でしょう。肥えた土地、痩せた土地という時、栄養分が有るか無いかを示しています。これまで、25年間、無農薬、有機栽培を目標に、毎年田んぼに堆肥を入れてきました。堆肥の原料は、カニ山の落ち葉、収穫したお米を精米した時に取れる米ぬかなどです。堆肥を作る場所は竹内さんの堆肥置き場を共同で使わせていただいています。

落ち葉、米ぬかは、混ぜ合わせて寝かせます。寝かせた落ち葉は菌類などの働きにより発酵します。発酵が順調に進むように適当に天地返し作業をします。完全な有機栽培にはこのような「土づくり」が何より大切です。農業の基本は土づくりといってもいいくらいです。

雑木林

カニ山は、田んぼの用水が湧き出ている谷の雑木林で、昔、たくさん湧き水があって、沢ガニがたくさんいたのでこの名前が付いたようです。コナラ、クヌギといった武蔵野の雑木林を今も残しているところ。雑木林は、堆肥にする落ち葉や薪にするシバ、炭や薪にする材木を取るために、人が入って管理していた自然（二次自然ともいう）の森です。そのため、切り株からまた枝をのぼして大きくなる（萌芽更新という）コナラやクヌギの仲間が残され、木の背丈も10m位に維持されてきました。ちょうど薪にしたり、炭焼きにするのにいい太さで切られるためにいつもそのくらいになるわけです。現在、都会にある自然を残すために、雑木林が残されることがありますが、その多くは、人間が手を入れないため、コナラ、クヌギなどが大きくなりすぎ



て、昔の「武蔵野の雑木林」の面影を残してはいません。カニ山も残念ながら、木が大きくなり過ぎ、人もたくさんはいるので、地面が固くなっています。本来の雑木林は、その地面にたくさんの水を含んで貯める保水機能も持っていて、湧き水が枯れない要因にもなっています。

炭焼きキャンプの様子

カブト虫の幼虫

カブト虫は、夏に羽化した後、子孫を残すために最適なところに卵を産みます。それは、腐葉土があるところです。田んぼの学校で毎年落ち葉拾いをして、積み上げておくところはカブト虫が卵を産む絶好の場所になっています。カブトムシの幼虫の観察も当日行います。

.....

12月16日(日) 10:00~12:00)の学習

内容 落ち葉拾い

場所 カニ山

持ち物 軍手、長靴

田んぼからのおたより2018

第16号 2019年1月12日発行

新年あけましておめでとうございます。田んぼの学校の授業もあと3回となりました。もう少しがんばりましょう。

今回の授業は佐須地域の行事「どんど焼き」体験と「土作り」としての落ち葉堆肥の天地返しです。

「どんど焼き」は、お正月の松飾りや門松、書初めなどを持ち寄り、集めて燃やします。その火にあたることで、一年間の無病息災がかなうといわれています。また、その熾火（おきび）でお餅や団子を焼いて食べることで風邪をひかないなどといわれています。いずれにしても昔から行われてきているこのような行事の謂われなどは多分に神様（昔からいたる所に神様が宿っていた）に対する感謝と願いが込められたものであることに違いはないように思われます。今回の授業では、実際にその行事を見学し、あらためてそのような行事が地域で長年にわたり続けられてきたのかということを考えていただければと思います。

右と下の写真はどんど焼き



もうひとつの授業が「土作り」です。作物を作る上で、土作りは大変重要な要素です。特に落ち葉、家畜の排泄物などからつくられる有機堆肥は農薬や化学肥料を使用しない有機農法には欠かせません。その昔、佐須でもカニ山の雑木林から落ち葉を拾い、堆肥づくりをしていたと思います。家畜も飼われていて、そのし尿なども発酵させた後堆肥に利用されていたはずですが。落ち葉は、毎年冬が来るたびに生まれますが、そのためには、雑木林が毎年同じように落ち葉が生まれるように手入れしていることが必要です。落ち葉を入手する雑木林では、常緑樹を伐採し、落

野川で遊ぶまちづくりの会

葉樹を維持するように手入れされてきました。同時に、コナラ等の落葉樹は若いうちに伐採して薪や炭に利用し、萌芽更新により実生（種＝どんぐり）から育つより短期間に有用に育てることも行われました。

薪や炭から出る灰までも利用していました。昭和の初めころまで、その様な持続可能な生活を私たちの祖先は維持してきたのです。

これらの先人の知恵を私たちも身をもって体験することが大切だと思っています。



左の写真は3 mほども積まれた落ち葉（8年前）

どんど焼き(佐須地域の行事参加)

1月12日(土)(11:00~13:00)の学習

内容「どんど焼き」体験 場所「田んぼ近く祇園寺前」

持ち物 箸と器（搗きたてのおもちが振る舞われます）、焼いていただくお正月飾り

かつて、農村の集落ではどこでも行われていたと思われるお正月の行事としてどんど焼き（地域によって呼び方が異なる）があります。佐須地域でも一時途絶えていたものを地域の青年会が復活して20年をこえる事業になっています。

土づくり

1月13日(日)(10:00~12:00)の学習

内容 堆肥づくり 場所「田んぼ」

服装など 作業ができる服装、長靴

堆肥集積地に積まれている落ち葉の天地返しをします。天地返しを繰り返すことで、落ち葉の発酵を促進することができます。

田んぼからのおたより2018

第17号 2019年2月3日発行

皆さんお元気ですか？ 2月の授業では、縄織い（稲わらで縄を作ること）を学習します。冬の間お米作りをやっている北国の農家では田んぼでの作業がないかわりに家の中で行う作業がありました。その代表的なものが縄織いです。インターネットで探してみると地域特産物マイスター協議会・財団法人 日本特産農産物協会が発行する「地域特産物マイスター通信」という広報誌にこんな文章がありました。「百姓仕事にとって縄織いは基本作業だった。結ぶにも、担うにも、運ぶにも、入れるにも、敷くにも、履くにも、そして保温にも、皆、縄が不可欠だ。目的に沿った稲藁の選択、湿り具合と打ち加減、縄織いのワザとコツ、何処の軒先に立っても藁を打つ槌音とショリショリと繰り返されるリズムが聞こえた。右の掌と左の掌の巧妙なワザが織う1本の藁縄には、時間（歴史）と空間（地域社会）が織り成す文化があった。」

2000年を超えるお米作りの伝統のなかに、農作業や普段の生活に欠かせない様々なものを提供したのが稲藁で作る縄であったり、草履であったり、米俵などでありました。お米作りを学んで一番驚いたことは、収穫されたお米だけでなく、籾殻、米ぬか、稲藁などその課程で生まれる副産物が一つも無駄になっていないことです。ここではいちいち書きませんが、ぜひ皆さんインターネットなどで探してどんなものがあるか調べてみてください。調べたら、是非皆さんに教えてください。

2月3日（日）（10:00～12:00）の学習

内容「堆肥天地返し」 場所：堆肥堆積所

履物は長靴をお勧めします。

雨の場合中止。

2月3日（日）（13:00～15:00）の学習

内容「縄織い」

場所：八雲台ふれあいの家（〒182-0015 東京都調布市八雲台1丁目42-2）

室内なので雨でもやります。藁草履作りに挑戦します。

午後も授業がありますので、お弁当をお持ちください。

縄織い

稲刈りをし、脱穀した稲藁は、実は大変な貴重品になっています。皆さんは実際に稲刈りをしているので、その大変さがわかると思いますが、農家が作っている田んぼの広さは、私たちの田んぼ（3畝）の最低でも10倍から大きいところはおそらく数百倍で、とても手では刈り取りできる広さではありません。コンバインという機械で刈り取りしますが、稲藁がそのままではかさばるため、同時に粉々にしてしまいます。だから、稲藁もありません。そのため、稲藁は大変貴重なものになっています。

さて、縄織いですが、いわゆる手仕事です。上手に、早く縄を作るとはなかなか大変です。でも、自分で作ることに大きな意味があります。そんなことが体験できればいいと思います。

みなさん、お楽しみに。



佐須の田んぼが残る

私たちが調布市の佐須でお米づくりを始めて27年が経ちました。調布市が、長年の懸案であった、佐須にある田んぼを残すことができる「深大寺・佐須地域環境資源保全・活用基本計画」を策定、当会が切望していた田んぼの保全が現実となったからです。そして、昨年度、調布市による田んぼがあった農地の取得が実現しました。2032年度の本番活用に向けて、暫定活用などで活用方法などを検討することになります。当会にとっては一歩前進ですが、これからが市民の力の見せ所です。

米作りで思う事

お米作りを始めて、いろいろなことを学ぶことができ、人が生きるということがどうゆうことなのかをあらためて考える機会となりました。ほとんどの生き物は、命を授かって、体外から生きるために必要なものを取り込んで成長し、それぞれの寿命を迎えて、分解されて自然に還ります。人もサルから進化しながら、何万年という時を経て、今の自分たちがいます。お米も、約1万年前の中国長江流域の湖南省あたりを起源として、3千年前ころには日本に伝来し、急速に広まったとされています。弥生時代と重なる時代で、かつては弥生式土器の発見で弥生時代とされていたものが、水田による稲作の農耕の広まりが弥生時代というようになったようです。今年私たちが作った稲も一万年前に始まった稲にそのルーツがあり、つながっていることに生き物の不思議を感じないわけにはいきません。植物である稲も、種が発芽の条件が満たされると、芽を出し、根を張り、葉を広げ、成長します。稲は、根から様々なものを取り込み、葉に太陽光を受けて、成長して、花をつけ、雄しべは花粉を散らし、雌しべが花粉を受粉して米粒となる次世代に命をつなぐ種ができます。今のお米は、一粒の種から500粒くらい収穫できるようです。

あらためて思うことは、地球にとって太陽が太古のころから人間のみならずすべての生き物の“元”になっているということです。日本には四季があり、それぞれの地域で太陽の恵みを最大限に利用して作物をつくり、営々と日々を紡いできたことを再認識するこの一年ではなかったでしょうか。

地球規模で起こっているさまざまな環境問題を解決するためには、グローバルな視点とローカルな視点での取り組みが必要です。「田んぼの学校」では、そのローカルな取り組みとして身近な環境である「田んぼ」のある環境を守ることを重要な目的にしています。

「田んぼ」には環境問題を解決するヒントがたくさんあります。「田んぼ」の米作りをとおしてそのいくつかでも気がついていただければと考えています。

宿題

今回の学習には、宿題があります。忘れずに持ってきてください。

宿題は、この12ヶ月間に田んぼで学んだことの感想文（長さは自由です。）です。この一年、参加した授業をもう一度、家族で振り返ってみてください。おとうさんも、おかあさんも、こどもたちもみんな書いてください。（書けない子どもは、おとうさん、おかあさんが代筆してください。）卒業式に読み上げていただきます。

卒業式欠席の場合も3月9日までに宿題は提出（メールなど）してください。

出欠席の確認

卒業式の出欠席を3月1日(金)までに尾辻までメールして下さい。

.....

3月10日(日)(10:00~13:00)の学習

内容「卒業式」 場所「調布市国領ふれあいの家(国領町8丁目1番地59)」

持ち物 お昼のおかず(参加される家族の人数分より少し多めにお持ちください。)

飲み物(御茶など) 取り皿(一人2枚)、はし、カップ

(田んぼで取れたお米でお赤飯、おにぎりを用意します。ジュースなども事務局で用意します。)

出欠確認のメールをお送りしますので、そのメールに返信してください。3月1日まで必着。

6. 参加者名簿

氏名	会員種別	住所
飯村	親子コース（継続）	調布市深大寺南町
池上	親子コース（継続）	調布市多摩川
岩崎	親子コース（継続）	調布市富士見町
遠藤	親子コース（継続）	調布市若葉町
黒木	親子コース（継続）	調布市柴崎
河野	親子コース（継続）	府中市押立町
佐藤	親子コース（継続）	調布市柴崎
鈴木	親子コース（継続）	調布市柴崎
曾根	親子コース（継続）	調布市西つつじヶ丘
高橋	親子コース（継続）	調布市染地
滝川	親子コース（継続）	調布市菊野台
長岡	親子コース（継続）	調布市富士見町
西村	親子コース（継続）	調布市深大寺北町
六田	親子コース（継続）	調布市深大寺東町
渡邊	親子コース（継続）	調布市国領町
渡部	親子コース（継続）	調布市上石原
安藤	親子コース（新規）	調布市西つつじが丘
市原	親子コース（新規）	調布市染地
丑沢	親子コース（新規）	調布市深大寺南町
長田	親子コース（新規）	調布市佐須町
金子	親子コース（新規）	調布市西つつじヶ丘
北浦	親子コース（新規）	調布市調布ヶ丘
栗山	親子コース（新規）	調布市調布ヶ丘
斉藤	親子コース（新規）	調布市布田
阪上	親子コース（新規）	調布市深大寺北町
外山	親子コース（新規）	調布市柴崎
中村	親子コース（新規）	調布市柴崎
野津山	親子コース（新規）	調布市柴崎
廣瀬	親子コース（新規）	調布市菊野台
松井	親子コース（新規）	調布市入間町
山田	親子コース（新規）	調布市西つつじヶ丘
吉牟田	親子コース（新規）	調布市若葉町
阪手	親子コース（新規）	調布市柴崎
今江	スタッフ	狛江市
入山	スタッフ	調布市

氏名	会員種別	住所
忍足	スタッフ	調布市
尾辻	スタッフ	調布市
尾辻	スタッフ	調布市
鬼弦	スタッフ	調布市飛田給
金入	スタッフ	調布市柴崎
小宮山	スタッフ	調布市
高橋	スタッフ	調布市佐須町
西山	スタッフ	狛江市西野川
藤川	スタッフ	調布市布田
堀内	スタッフ	多摩市
増川	スタッフ	狛江市和泉本町
松本	スタッフ	調布市富士見町

7. 参加者感想文集

田んぼの学校感想文

今期、初めて田んぼの学校に参加しました。

田植えや収穫祭などのメインイベントの幾つかに参加できなかったのが残念ですが、定期的に発行されるお便りのおかげで、全ての工程を見ることができました。

翌年雑草だらけにならない田んぼは農薬を撒いているということを知り、意識して周囲を見てみると、雑草のはびこらない田んぼの多いことに気づきました。

きれいな水、きれいな土、きれいな空気で作物を作り、子供たちに食べさせていきたいという思いが強くなりました。

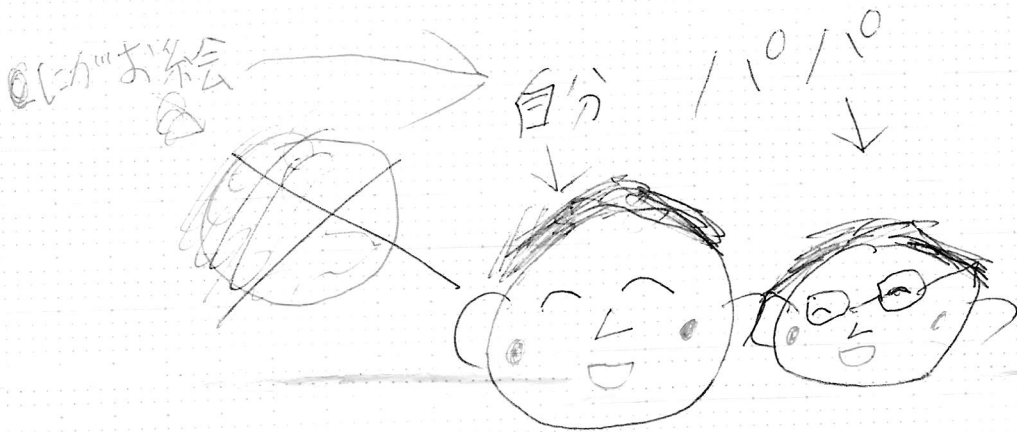
そのためにもカニ山の湧水を大事にしていきたいと思ひますし、自然を残す活動に積極的に参加していきたいと思ひました。

最後に、指導していただいた尾辻さんご夫妻を筆頭に、数々のサポートをいただいた常連の皆さんに心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

丑沢 徹

用んぼの学末交わり たのしかったです。
なにかというところあそびを
したことで、すあとお米をまくの
か、楽しかったであ
ういわたいと



I feel warm in both soul and body.
You cannot cancel happiness.

わたしたち親子は今年がはじめての参加でした。
未自身、田んぼの糸豆腐もなかったのに、親子で
参加するたびにとても新鮮で発見にあふれた
楽しい時を過ごすことができました。

とくに印象に残っているのはクロツケ豆腐
です。ひんやりねっとりな泥の感触はすごく
気持ちよかったです。おぼろからはみんな生かしているよ
のうたに出てるよカエルだってオケラだってアメンボだってよ
のオケラを始めて見ました。田んぼの学校に入っ
ていなかったら、泥の感触も実物のオケラも知ることは
なかったと思います。とてもいい経験
になりました。ありがとうございました。

外山 弓子



田んぼの学校 感想文

岩崎 恭子

今年は去年より参加できた回数も少なくなりました
ことが反省点でしたが、その中でも種まき、くろつけ、生き
物観察、水路づくり、かかし作り、炭焼きキャンプ等々
四季折々の田んぼの活動に参加し、四季を感じることに
できて良かったなと思います。子どもの成長につれ、幼い頃とは
違う大変さに日々余裕のなくなってきた頃ですが、
田んぼに来て学んだ人と自然との共生の大切さ、自然とふれ
あうことの楽しさ、自然の大切さなどを心に、毎日を
大切に生活してきたいなと感じました。

一年間ありがとうございました。

2019/3/10

田んぼ

高橋 均

息子たちに自然体験ができるようにと家族ではじめた田んぼもとうとう6年目がおわってしまいました。しかし、まだ全部の作業をやっていません。

最初は息子たちも生き物を捕まえたりして、田んぼを楽しんでいましたが、成長とともに興味がうつり、今では夏祭りに参加するだけとなってしまいました。ただ、田んぼのおかげで、長男は焼き鳥の焼き方をしていますし、次男は火のつけ方をしています。息子たちも大きくなってしまいました。

さて、私自身、田んぼでの作業が楽しいかといえば、非日常的で結構たのしさを感じますし、みなさんと共同で作業する事も楽しみになってます。いつしかスタッフになってしまったので、できるだけ新しい人にやってもらうよう手を出さないでいるのですが、実はやりたくて体がむずむずしています。

「今日はだれがくるだろうか・・・。」と思いながら参加しています。

ここでは、お父さんお母さんとの挨拶はもちろんのこと、子どもたちの元気な声聞くだけでうれしくなります。子ども達は何を感じてくれるのだろうかと将来が楽しみです。

祇園時の住職さんの話では漫画家の水木しげるさんも好んだというこの場所は自然と人と不思議な魅力がある場所です。

また4月からもよろしく願いいたします。

田んぼの学校 感想文

2019/3/10

●高橋 拓土

昨年度に体験できなかった工程も今年度体験でき満足できた。
実家が新潟で米農家でした。この年になって祖父が米を作っていた気持ちに少し近づけたことに対して感慨深いものがある。

●高橋 明香

貴重な稲作体験とともに、田んぼの四季折々の姿や、生き物、自然を肌で感じられて、良い経験になりました。
しろかき、くろつけも楽しかったです。
子どもたちにとっては、学校以外の場での、異年齢の子どもたちや、大人との関わりができたことも、良い経験になったのではないかな、と思います。
ありがとうございました。

●高橋 晴和

かに山でのデイキャンプがたのしかったです。

●高橋 葉月

どろんこであそんだのがたのしかったです。

田んぼ"の教室は、今回で"2回目"に
なりますが、1回目では気づかない
新たな発見がありました。

2回目も皆勤賞は取れなかったのに、

3回目も更なる発見があるのだ"と思います。

佐藤 寛聡

田んぼの学校は今年二年目ですが、去年は里帰りのため
稲刈り以降ができたので。今年も稲刈りから9行事が
出来たのは私にとってとても大きかったです。

稲刈りをした後 さらにはまだついているお米を手作業で取ることも
とても尊い事でした。稲刈り後のワラも しめ縄や縄たしをすることも
実用化される事にも驚きました。

とんど焼きは初めて見ましたが、すごい迫力でした。その後子供たちと
おぼろを焼いたのも いい思い出になりましたし、ずと残して（おぼろ
伝統だなと感じました。

今年も赤ちゃんを抱っこしてついでに出来たおぼろ田植えを来年度は
やりたいたと今から楽しみにしています。

伊藤 千春

たんぽぽのしずく
たんぽぽのしずく
たんぽぽのしずく

田んぼでいぬを
さしたの力が
しかなかったの
さとうりく

3/10 たんぼの学校 感想文

田舎育ちで母親の実家は兼業農家で、毎年お米も作っていますが、稲作や農業については知らないことだらけという事がわかりました。今回はかかし作りからの参加だったので、末期は田植えや稲刈りもあり農業の大変さをより一層体験できると思います。

今回はまき割り、もちつきなど、一見簡単そうでも意外と難しい作業で少し大変だったので次回は筋トレしてから臨みます！半年間ありがとうございました。

阪手祐介

さかこしいたのふです
おこめおはあずすはかいかす
ごいんあつし おもい ました
ひとつふすつてごると
おまつてい ました
おまわつき であ
おもあさかたあおにく
なごあたべておいしかつたです

田んぼの感想

西山 光明

去年の夏も猛暑日が続いたりスーパー台風
がや、とエたりしてかなり過酷な夏でした。
それでも稲は育ち無事収穫のりことができま
した。収穫量ができて本当に良かったと思えます。

年々変わりゆく自然現象に、対応して田植
このころはえの時期をずらしたり品種改良した苗を使たり
していかないと収穫量も減ってしまうのか心配です。

田んぼに一年かきうことで色々な事を考える。
環境問題や食料自給率のこと。これから先
自分に何がエ子のか等。とりあえぬバウの苗を二本
花だんに植えました。花だんの水やりには雨水を使
たりしています。

田んぼに通い始めて9年目ですが、時がたつのは
あつという間でした。最初に田んぼに果ては小学1年生
だった長せは、この春から高校生です。

子供の成長は早いですが、自分自身も30分歳を
とります。自分が死ぬ前に池山のことを田んぼを
通じて真剣に考えたいと思っています。→うさ

子供達にとって田舎が"家"子育て.

や環境問題を考え子供達のために
たつてくくくく"と書いてる。

昨年度に引き続き、参加をさせて
頂きました。調布には9年前に
越してきて、調布の自然に深く関
わる体験がしたいと思っていたと
ころ、この田んぼの学校に出会う
ことができました。

いま、田んぼの畦を作ったり、
用水路の清掃、田植え、収穫、稲
わらを使った正月飾りの制作まで、
自然の移り変わりを感じながら、
一年間通して体験できる機会が本
当に貴重なものだと思っております。

子どもたちが、シャツもズボン
も土の色、草の色に染まるほど没
頭した経験はきっと記憶の奥底に
残り続けてくれることと思っております。
そういった直接体験こそが、持続
可能な社会の実現といった課題に
も、自分事として向き合うベース
になるべくれるものだと信じていま
す。一年間、ありがとうございました。

ゆたしか ~~た~~ のし かう た こと は、
すいろ を き れい に し た こと で お

なせなら ゆたし は 虫 に き ゃ う み

がある から です。

ひ、 くりし た こと は、

ころで ^ひ か ^ひ を つく、 た と き に

ザリガニ か り た こと です。

どう やう て み つ け た か と い う と、

な ト か あ か い の か 見 ず て、 ゼ 氷 を

ひ、 ぱ、 た ら、 ザリガニ で し た。

1 年 間 あ り か と； め じ ゃ い ま し た。

西村綾音

たのしか、たのは、どろのかへをつく、マ、どろだらけにな、たことです。

いやだ、たのは、めにすながはいったことです。

うれしか、たのは、あーちゃん(姉)が、わたしができなかつたことをてっだ、てくれたことです。

あとたいちくんとい、しょにでき、て、うれしか、たです。

ありがとうございました。

かなえ

【2018年度 たんぼの学校感想文】

2019年3月10日

池上 恭史・雅子・太力

たんぼでどろんこになるのは口にどろが入りそうでちょっと嫌だったけど
虫やカエルを探すのが楽しかった。

たんぼの学校の2年目が終わりました。

一年目と違い

手順やその目的をある程度理解し、動けたこと

しろかきで息子とどろんこになれたこと

収穫祭に参加できたこと

荒縄作りのコツをつかめたこと

個人的に勝手に満足しています。

また、できなかったことができるようになったり、嫌がってたことを楽しんでたり

たんぼやカニ山といった同じ風景の中で息子の成長を目にする贅沢な時間も満喫させて頂きました。

「調布にたんぼを残す」という尾辻さんの野望を詳しくきく機会もあり、

調布で長いこと暮らしているものとしてこれからもかかわっていきたいと思っています。

尾辻さん並びにスタッフのみなさま1年間お世話になりありがとうございました。

今年も1年間 ありがとうございました。

2年目になり、去年は初めての事は「かりで」緊張していましたが、今年はい少し余裕をもって取り組みました。

今では、なかなか経験できない田んぼでの1年を子供に体験させたいと思い始めたのですが、どろんこ遊びや

田植えや、かかし作り、稲刈り、収穫祭など、思い返せば、

どちらかというと、親の方が盛り上がっていたのではないかと

思います。普段はあまり汗をかきませんか、田んぼで

体を動かし、汗をかき、とても気持ちよく作業をした後の

ビールは最高でした。しかし、雨で作業ができなかったり、

暑くて稲刈りの時は本当に辛かったし、冬は寒くて手が動か

かなかったりして、農業の過酷さも知りました。それでできあ

がった自然農法のお米の美味しさには感動しました。

やわらかくて、甘味のあるとても優しい味がしました。

次回は子供ももう少しお米のできていく姿も一緒に

見つめていけたらと思っています。また、田んぼの学校を

通して、普段会えない様々な方達ともお会いできたことは

うれしいことでした。校長先生はじめ、スタッフの方々、そして

メンバーの方々、1年間 ありがとうございました。

池上雅子

今年で2年目の田んぼの学校でした。

2年前子どもに自然と触れ合う機会を与えたい
パンフレットのように我が子にも是非どろんどろん体験を
させたいと入学しました。

しかし1年目は親の思いとは反対に、田んぼに来て
抱っこをせがまれ、期待していた田植えでは、泥で汚れるのが
嫌だと大泣きをされ、泥んこどころか田んぼに入る事すら
出来ませんでした。

しかし一年を通して家族で体験してきた米作りは
1つ1つの新鮮な体験で、時には全身をこらして行う
作業に体のあちこちが痛くなることもあったけれど、

自然の中の農作業は気持ちがよく、いつしか子どもとは関係なく
私の自身の楽しい時間へと変わりました。

そして今年の息子はとうとう見達えるよう。

用水路で遊んだり、虫を追いかけて回したり、田植えの時には
見事に全身どろんだらけで泥合戦をする姿まで見せてくれました。
今では“明日は田んぼだよ”と伝えると“やったー”と喜び
田んぼのある日を楽しみにしています。

“田んぼに行くよー”と出掛ける姿にたくましさを感じます。

田んぼを通じて、息子の成長をとても実感出来た1年でした。

また私には家族にとっても家族そろって一緒に作業する時間は
とても楽しく貴重な時間とりました。

また地域の方々と交流出来た事も私にとって、とても嬉しい時間でした。

来年も入学したいと思っています。次の1年、子ども自分や家族が
どのように成長出来るか楽しみです。お世話になりました。

校長をはじめスタッフの皆様1年間 本当にありがとうございました。

渡部 縁

2018年度の田んぼを振り返って

尾辻さんと比べれば年数も密度も少ない経験しかありませんが、それでも何年かの米作りを経験してきました。その間には猛暑や冷夏、水不足や台風などいろいろなことがありました。

去年は天候により稲刈りの日程が変わるなど、予定が変わって参加できずに残念な思いをした方もいらしたかと思いますが、米そのものは無事に育ってくれたと思います。

自然の大きな力の前には人は無力で、こちらが合わせるしかありません。でもその気になればできることもいろいろとあります。調布そして佐須地域の田んぼがこれからも続いていって欲しいと思います。

調布・田んぼの学校 スタッフ忍足和彦

ろくたいおツ

かまでしねかりを
したのがたのしかった
です。すいそでたんさん
あそびました。



卒業式感想

今年は去年逃してはった稲刈りにも参加することが出来た。ようやく本懐も遂げたという感じだ。苗床作りから荒起し、くろつけ、しらかき、田植え、稲刈り、脱穀、精米と主な作業には参加出来たのも良かった。個人的に、一番好きな作業は泥をこねて畔を作りあげていくくろつけだ。無になる感じが子供の遊びのようでもあり、修行のようでもあり、とてもいい気分転換になりました。

子供に感じを言えば、今年も作業にはほとんど参加せぬも、はら水路で遊んでばかりだったので、お米を作る大変さと、みんなの力を合わせて作業をやることの大切さを知らせてほしいという親の思いは届かなかったようだが、とても楽しかったようだ。これはこれでよしとします。

貴重な体験もさせてもらい、本当に感謝しています。2年間、お世話になりました。ありがとうございます。

六田 ゆき

8. 総括報告

「野川で遊ぶまちづくりの会」

代表 尾辻義和

「田んぼの学校」という形で再スタートした、「野川で遊ぶまちづくりの会」の「米つくり」も第18期を終えることになりました。今年度の参加者は親子講座33組、スタッフ14名、総勢134名となりました。

田んぼの作業は毎年同じ作業の繰り返しですが、同じようにできる事は減多になく、目が離せません。幸い生育は順調で、玄米にして104Kgほどを収穫しました。

今年度も、参加して頂いた方々には感想を書いて頂きましたが、「田んぼの学校」の趣旨がきちんと伝わっている事にたいへん嬉しく思っています。年々、参加したいという方が口コミで増えており、ほとんどの皆さんが継続して田んぼをやりたいと言っておられ、かといって、新しく応募される方にも加わっていただきたいとも思っているため、耕作面積は何とか増やしたいと今後も行政など関係する方々をお願いする次第です。

昨年度は、調布市の事業により、佐須の里山保全に進展があり、この地域で田んぼが残すことができるめどができるようになりました。今後、行政がこの地域の畑や田んぼを取得するようなことが発生した場合、市民が畑や田んぼを継続して耕作することが望まれます。私たちの「田んぼの学校」事業がそのお役に立てるよう、事業を継続していきたいと考えています。私たちの田んぼの周辺では、耕作放棄と思われる農地や、耕作できずに雑草に覆われている農地があり、里山の景観上にも問題があると思われます。行政が取得した農地も含めて市民による耕作が可能になるよう期待しています。

昨年も要望いたしましたが、多くの市民が集まって行うため、以下のような問題も放置できなくなりつつある状況にありますので、行政に少しでもご配慮いただければ幸いです。

- (1) 手洗いやトイレ（現在は、竹内さんの設備を使用させていただいている）
- (2) 休憩場所（竹内さんの敷地や道路を使用している。特に道路は子どもたちが遊んだりするため、通行する車に迷惑を掛けている）
- (3) 道具類の置き場所（現在は、竹内さんの納屋などを使用させていただいている）
- (4) 農器具が老朽化（耕運機、糶摺り機）して壊れてしまったので、代替の機械がほしいところであるが、適当なものがない。現在は中古を購入している。

他にもスタッフ不足など問題はありますが、継続して講座を続ける方をお願いをしてスタッフになっていただきました。さらに、ちょうふ環境市民会議のサポートをいただくなど、少しずつ前進していきたいと考えております。皆様のご指導、ご協力をお願いして、総括とさせていただきます。

以上

付録 調査記録

佐須用水路、田んぼ動物確認種報告書

田んぼ植物確認種報告書

調査場所：佐須用水（本流及び分流）

調査日：2018年4月22日（日）

調査方法：目視観察、タモ網による任意採集

天候：晴

確認種一覧（赤字は移入種であることを示す）

〔扁形動物門〕

1. アメリカナミウズムシ *Girardia tigrina*（サンカクアタマウズムシ科）

〔環形動物門〕

2. イトミミズ亜科の一種 *Tubificinae Gen. sp.*（ミズミミズ科）

〔節足動物門〕

3. カワゲラ科の一種 *Perlidae Gen. sp.*（カワゲラ科）
4. フタスジモンカゲロウ *Ephemera japonica*（モンカゲロウ科）
5. コカゲロウ科の一種 *Baetidae Gen. sp.*（コカゲロウ科）
6. コオニヤンマ（サナエトンボ科）
7. オニヤンマ *Anotogaster sieboldii*（オニヤンマ科）
8. アメンボ *Aquarius paludum*（アメンボ科）
9. シマアメンボ *Metrocoris histrio*（アメンボ科）
10. ヤマトクロスジヘビトンボ *Parachauliodes japonicus*（ヘビトンボ科）
11. コカクツツトビケラ属の一種 *Lepidostoma sp.*（カクツツトビケラ科）
12. グマガトビケラ属の一種 *Gumaga sp.*（ケトビケラ科）
13. ホソバトビケラ *Molanna moesta*（ホソバトビケラ科）
14. ニッポンホソカ *Dixa nipponica*（ホソカ科）
15. ユスリカ科の一種 *Chironomidae Gen. sp.*（ユスリカ科）
16. ブユ科の一種 *Simuliidae Gen. sp.*（ブユ科）
17. ガガンボ科の一種 *Tipulidae Gen. sp.*（ガガンボ科）
18. ミズムシ *Asellus hilgendorfi*（ミズムシ科）
19. フロリダマミズヨコエビ *Crangonyx floridanus*（マミズミズムシ科）
20. ミナミヌマエビ *Neocaridina denticulata denticulata*（ヌマエビ科）
21. シナヌマエビ *Neocaridina denticulata sinensis*（ヌマエビ科）
22. スジエビ *Palaemon paucidens*（テナガエビ科）
23. アメリカザリガニ *Procambarus clarkii*（アメリカザリガニ科）

〔軟体動物門〕

24. カワニナ *Semisulcospira libertina*（カワニナ科）
25. コシダカヒメモノアラガイ *Lymnaea truncatula*（モノアラガイ科）
26. サカマキガイ *Physa acuta*（サカマキガイ科）

〔脊索動物門〕

27. スミウキゴリ *Gymnogobius petschiliensis*（ハゼ科）
28. アズマヒキガエル *Bufo japonicus formosus*（ヒキガエル科）
29. ニホンアマガエル *Hyla japonica*（アマガエル科）
30. アオダイショウ *Elaphe climacophora*（ナミヘビ科）

確認種（状況）による評価：

今回確認した種は例年よりも多く、30 種に達した。例年と同じくユスリカ科の一種やミズムシ、アメリカザリガニなど富栄養環境に多く出現する種も確認されたが、その個体数は少なかった。一方、清冽な水を好むカワゲラ科の一種やトビケラ類の個体数が多く、溪流性のヤマトクロスジヘビトンボやブユ科の一種も確認されたことから、底質環境が改善された可能性が考えられた。この要因の一つとして、平成 29 年度に降雨不足に伴う用水路の干上がりがあり、これが池のかいぼりと同様の底質干し上げ効果をもたらしたものと推察される。さらに落ち葉やドングリといったリター等の堆積もほとんど見られず、こうした富栄養化につながる要因が減少したことも状況が変化した要因の一つと考えられる。

ただし、ここ数年記録がないホトケドジョウは、今回も確認されなかった。

過去には、優占種であったフタスジモンカゲロウも確認されたが、その個体数は 1 個体のみであり、細かい砂地の減少が、これら砂地を好む種類の減少に繋がっているものと推察される。

また、用水自体の干上がりによる水生生物自体の影響については、今回の調査結果からは負の影響は認められず、復水後、上下流から生物資源が滞りなく供給されたことが示された。



アメリカナミウズムシ



フタスジモンカゲロウ



カワゲラ科の一種



コオニヤンマ



オニヤンマ



ヤマトクロスジヘビトンボ



ミナミヌマエビ



ブユ科の一種

発 行

2018年3月31日

野川で遊ぶまちづくりの会

代表 尾辻 義和

〒182-0016

調布市八雲台2-20-8-201

電話 042-487-4385

Mail otsuji@y.email.ne.jp

URL <http://nogawa-tanbo.sakura.ne.jp/>